

特集

日仏法文化交流のあけぼの ボワソナード再発見

緒 言

岩 谷 十 郎

2025 年 10 月 22 日、15 時より、慶應義塾大学三田キャンパス北館 1 階ホールにて、講演会「日仏法文化交流のあけぼの ボワソナード再発見」が開催された。このイベントは、フランス外交ネットワークの第 3 回「法の日」(Journée du droit, 3^e édition・2025)の一環として、在日フランス大使館と慶應義塾大学法学部との共催により行われた。2025 年は、日本の近代化のために法典編纂事業を通して大きな貢献を果たしたフランス人法学者ボワソナードの生誕 200 年にあたった。そこでこのことを記念して、ボワソナードという人物やその事績について、フランスと日本の研究者による紹介と新たな評価とを通して、日仏の法文化交流の歴史と現在とを考える企画として、上記のタイトルとした。

本企画の準備は、在日フランス大使館との相談の下に、池田眞朗名誉教授、岩谷十郎法学部教授(当時)・常任理事が中心となって進め、リヨン政治学院(シヤンスポ・リヨン)准教授のベアトリス・ジャリュゾ(Béatrice Jaluzot)氏の招聘が決定され、各講演の内容等の事前調整が行われた。ジャリュゾ氏の来日に伴う諸手続き、及び当日の日仏同時通訳者の手配等については、在日フランス大使館科学技術部・学術・大学交流担当官、エリック・モレー(Eric Molay)氏と、同大使館・学術・大学交流担当官アシスタント、井上千尋氏のお手を煩わせた。ここに記して感謝申し上げたい。

当日の進行は、司会を北澤安紀法学部教授・常任理事が務め、亀井源太郎

法学部長、エリック・モレー氏の挨拶に引き続き、以下掲載の順番で各40分ずつの講演が同時通訳を介して日仏両国語で為された。

- ・岩谷十郎「ボワソナード・ウィグモア・慶應」
- ・ベアトリス・ジャリュゾ「ボワソナードと19世紀フランスにおける法学説の近代化」
- ・池田眞朗「ボワソナードの生涯と真実、そしてその日本への遺産」

この後休憩を挟んで、壇上に集まった講演者と会場の参加者との質疑応答が北澤氏の司会で行われ、予定よりややオーバーして18時前に閉会、その後講演会場に隣接した教職員食堂「ファカルティクラブ」にて、講演者や企画者、さらに当日の会場運営に協力してくれた方々を囲んでのアペリティフのひと時を持った。本イベントの広告文の作成、ならびに当日の会場の設営・受付・連絡については、法学部教授の前田美千代、同出口雄一の両氏と、両氏の指導下にある学生および院生諸君に大変お世話になったことを付記しておきたい。

なお講演会の当日から10月24日午前中まで、会場の入口付近（フォワイエ）にて、講演会に関連した全14点からなる写真展示を行った。特にボワソナードやウィグモアの写真は、その所蔵元の法政大学図書館、法務図書館、慶應義塾福澤研究センター等の許可を得て展示された。また写真や説明文の飾り付けについては、慶應義塾大学公認学生団体・書道会の学生諸君の協力を得たことも感謝の意とともに記録に留めておきたい。



ここに法学研究編集委員会による許可を得て、上記3本の講演原稿を論説（特集）として以下掲載する。掲載にあたって原稿の作成については、講演会の雰囲気や文体上できるだけ留める趣旨で、「です・ます」を用いること、また脚注については、当該講演趣旨に変更を与えない範囲で付すとの方針を立てた。また、ジャリュゾ氏の論稿については、日本語訳（数本将典准教授による）のみならずフランス語テキストも掲載し、当日の講演会全体の臨場感を保つこととした。読者諸氏におかれては、各論稿に描かれるボワソナードの姿を通して、日仏法文化交流の黎明に思いを馳せて頂きたい。